平成 28 年５月 13 日

各　　位

会 社 名　株 式 会 社 フ ル ッ タ フ ル ッ タ
代 表 者 名　代表取締役社長執行役員 CEO　長 澤　誠
（コード番号：2586　東証マザーズ）
問 合 せ 先　取 締 役 専 務 執 行 役 員 ＣＦＯ　杜 山 悦 郎
TEL. 03-6272-3190

業績予想の修正、営業外費用及び特別損失の計上に関するお知らせ

最近の業績の動向を踏まえ、平成 28 年２月 16 日に公表いたしました平成 28 年３月期（平成 27 年４月１日～平成 28 年３月 31 日）の業績予想を、下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

また、第４四半期累計期間において、デリバティブ評価損を営業外費用、固定資産の減損損失を特別損失に計上いたしましたので、併せてお知らせいたします。

記

１．　業績予想の修正について

平成 28 年３月期　通期業績予想数値の修正（平成 27 年４月１日～平成 28 年３月 31 日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	１株当たり当期純利益
前回発表予想（A）	百万円 2,650	百万円 △390	百万円 △400	百万円 △450	円　銭 △445.81
今回発表予想（B）	2,570	△475	△580	△685	△678.62
増減額（B-A）	△80	△85	△180	△235	
増減率(%)	△3.0	－	－	－	
（ご参考）前期実績（平成 27 年３月期）	3,344	106	349	201	214.35

２．　修正の理由について

(1)　　売上高

当社の主力事業であるアサイー市場につきましては、前上期からの市場の盛り上がりから一転して厳しい状況が続いており、通期売上高は前回予想を 80 百万円下回る見込みとなりました。主な要因としては、ナショナル・ブランド事業部門において、引続き主力製品の大容量３品とフルッタアサイーシリーズの売上が低調となったことと、３月発売の新製品「スーパーフードスパークリングシリーズ」、フルッタアサイーシリーズの「フルッタアサイースーパーグリーン」、「フルッタアサイーグラノーラ」の導入数量が想定を下回ったこと等が挙げられます。なお、アグロフォレストリー・マーケティング事業部門及びダイレクト・マーケティング事業部門の売上高は、当初予想通りに推移いたしました。

(2)　売上総利益

当第４四半期会計期間において、社内の品質管理部門にて全ての原材料・商品在庫の品質及び保管状況等の実地調査を実施したところ、原材料在庫の一部に品質不良品があること及び日本国内外での輸送時もしくは保管状態の影響によるものと思われる容器や包装が破損した原材料・商品在庫があることの報告がありました。当該原材料在庫の品質不良品については、当社の原材料として使用する際の品質検査で使用不能品と判定され、仕入先から代替交換を受けた原材料があり、その使用不能品の製造ロットに近い原材料であります。当社としては、その使用不能品に近い製造ロットにも少なからず不良発生リスクがあるとの考えから、仕入先に対しては仕入価額の減額をして頂き、廃棄や会計上の処理については品質管理部門の再調査の結果を待って判断することといたしました。今回品質管理部門の再調査により原材料として使用不能と判定されたことから、当該原材料在庫 49 百万円を廃棄対象として評価損をすることといたしました。また、今回の調査で報告された再販が難しい容器や包装が破損した原材料在庫 6 百万円及び商品在庫 6 百万円についても、今期において廃棄対象として評価損を計上することといたしました。

結果として、製品在庫に係る廃棄損失引当額 14 百万円も含め、在庫に係る廃棄損失引当額として 76 百万円を計上したことと、ナショナル・ブランド事業部門の売上高の減少による利益額が 38 百万円減少したこと等で、売上総利益が前回通期予想 753 百万円から 118 百万円減少し 635 百万円、売上総利益率が 28.4%から 2.3%低下し 24.7%になる見通しであります。

(3)　営業利益、経常利益

販売費及び一般管理費については、引き続き人件費や販売促進費等の抑制及び消耗品等の経費削減に努めたことで前回予想に比べ約 32 百万円減少する見通しではあるものの、上記の通り売上総利益は前回予想を下回る見込みとなったことから、営業利益の損失額が拡大(前回通期予想　営業損失 390 百万円、今回通期予想　営業損失 475 百万円)する見込みとなっております。

また、当社は輸入取引において円安による為替リスクをヘッジする目的としてデリバティブ取引に取組んでおりますが、急激な為替相場の変動等により円高に進んだことで、結果として、キャッシュでの支出は発生しないものの、営業外費用でデリバティブ評価損 97 百万円計上する見込みとなりました。

(4)　当期純利益

当社は、当第２四半期累計期間において、多額な営業損失を計上したことで保守的観点より繰延税金資産の全部を取崩しております。当社としては、業績の回復を最優先課題として新製品の販売拡大と経費削減等に努めておりますが、業績を立て直すには時間を要するものと想定しており、将来の回収可能性を検討した結果、全社資産と店舗資産に対して減損損失として 59 百万円計上する見込みとなりました。

以上の理由により、平成 28 年 3 月期の通期業績予想を上記の通りに修正いたします。

３．　今後の取り組みについて

当社のおかれている状況は引き続き厳しいものとなっておりますが、2015 年 9 月に発売した下期新製品については発売から 2016 年３月までの期間において雑誌 21 件、新聞 7 件、テレビ 6 件等、各メディアに取上げられております。当社は、引き続き日本のスーパーフード市場を牽引するべく高付加価値製

品の企画開発に取り組むとともに、販売体制の見直し、強化により売上の拡大と売上総利益率の改善を図り、一層の経費削減を推進して業績の改善に努めてまいります。また、当社業績の回復には時間と資金を要するものと想定していることから、今後においては、財務体質の改善等を図るべく他企業との提携等も検討してまいります。

また、2015年５月に発表しております中期成長ビジョンにつきましては、当期業績を踏まえ見直しを検討しております。

（注）上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成しております。実際の業績は今後様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

以上